
H+Brain

SABA

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

H + B r a i n

【Nコード】

N 9 1 6 8 F

【作者名】

S A B A

【あらすじ】

幼いころに父親を何者かに殺された主人公、咲麻基那は犯人を捜すため「何か」を知っている警視庁にハッキングを続けた。そして、その「何か」を知ったときこの全てをかけた犯人との戦いが始まる。

FILE・0（前書き）

読んだら感想お願いします

FILE - 0

今の日本の法律は腐っている

刑事訴訟法250条 時効

なぜこのような法律があるか分からない

誰が得をする？

得をするのは罪を犯した者と一部の警察

今そんな状況のこの国が憎かった

14年前

「お、お父さん……」

目の前には、赤く染まった男の人が横たわっていた

それが自分の父親であることは、4歳の俺でもわかった、

でも信じたくなかった。

現在

あの事件以来俺はココロを閉ざし続け、

人との係わりを避けてきた

そんな暇なかった、毎日のようにあらゆる情報を探した

今となつては警視庁にハッキングをして、当時の情報を探った

今ではこのハッキングが最大の情報源になっている。

最近分った事がある

それは、警視庁が俺に「何か」を隠している・・・それだけだ。

後一步のところでの「何か」が分からない。

警視庁が俺に隠し続けたい事……

分からない……何もかも

FILE・0（後書き）

読んでもらいありがとうございます!!

FILE - 1

東京、俺は日本の中心に住んでいる。

俺の名前は咲麻基那　さくまもとな

周りからすればただの平凡な高校三年にしか見えないだろう

誰も俺があ的事件の被害者なんて知らない

あの事件はけっこう日本でも有名だった

でも14年もたった今では誰も覚えていないだろう

それが現実だ

カタカタカタ・・・・・・・・

チッこんな情報はいらん、あん時の情報はねえのか！

今は高校にいるが屋上で警視庁にハッキングをしている

どうすりゃいいんだ・・・・・・・・

「またハッキングか？基那」

「まあな、」

今俺に話しかけている奴は、同じクラスの久流渡　くりゆう　わたる

俺が唯一全てではないがココロを開いた奴

色々といつには協力してもらっている

「っで、なんか進歩はあったのか」

「何もねえよ、まったく、」

「そう、俺はあったぞ」

俺は耳を疑った

「まじか！どんなだ？どんなのだ？」

「落ち着け、これだ親父の書斎から見つけたんだ」

そう、こいつの親父は警視庁の幹部、最大の情報源になる

「これ、IDじゃねえか！！」

後一步でだめだった理由、それがこの96行にも及ぶ長いIDパスワード

「これで開ける・・・やっつと。」

「覚悟、できてるのか？」

「当たり前だ、じゃなきゃここまでするか！」

「なら俺は、何もいわねえよ」

俺は何の迷いもなかった、ただ知りたかった

警視庁が俺に隠し続けたいこと、そして犯人を。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9168f/>

H+Brain

2010年10月8日21時59分発行